

絶滅危惧種“クビレミドロ”

■ 分類

クビレミドロは、黄緑藻類に属する藻類で、現在、本種は、環境庁の植物版レッドリストにおいて「絶滅危惧Ⅰ類(絶滅の危機に瀕している種)」に登録されています。(写真上:屋慶名)

■ 分布

日本における本種の分布は、沖縄島においてのみ記録されています。比較的静穏な内湾の干潟域で、マツバウミジグサやコアマモなどの海草類と混生して観察されます。

沖縄島において、過去に13カ所あった生育地は、過去の埋立や台風などにより減少し、現在では中城湾港泡瀬、屋慶名、恩納村太田の3カ所でみられる程度となりました。(写真下:恩納村)



■ 生態

春季

春先にはマット状に密生した群生域がみられます。この時期、ほとんどの株に造精器と生卵器が形成されます。



秋～冬季

水温の低下する時期に発芽し、細砂やシルトを枝間につけながら伸張します。



生卵器

造精器

生活史

春～夏季

藻体に付着した受精卵は褐色を呈しています。



夏季

藻体は初夏に枯死流失しますが、受精卵は高水温の夏場に海底で休眠します。